



皇學館

学園報 第46号

発行・編集 / 学校法人皇學館 企画部
TEL:0596-22-6496・8600

●大学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL:0596-22-0201(代表) FAX:0596-27-1704

●高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
[高校]〒516-8577 TEL:0596-22-0205(代表)
[中学]〒516-8588 TEL:0596-23-1398(代表)

注目記事

1 面

周年記念行事を盛大に挙行

2 面

専の会地区別教育懇談会を開催

3 面

皇學館高校吹奏楽部が初のWタイトル！
井後氏、宮城氏が名誉教授に就任

4・5 面

実習・インターンシップで就業体験

6 面

オーストラリア語学研修
オープンスクール実施 ほか

7 面

291名が教免更新講習に参加

8 面

皇大生が国内外で活躍

連載

2 面

皇學館人物列伝② 鈴鹿三七

3 面

リレーエッセイ
市田敏之（教育学科准教授）

4 面

研究室探訪 vol.17
白山ゼミ（文学部神道学科）



厳かな空気の中、賀陽宮邦憲王殿下の令旨を奉読する中村校長



高校・中学校代表者による挨拶

の『皇国ノ文学ヲ修メ』る意義だと述べた。次に登壇した佐古一洌理事長は、時代がどう変わろうとも「建学の精神を堅持実行するな

午後からは所功本学特別招聘教授・京都産業大学名誉教授による記念講演「皇室に学ぶ日本人の底力」が行われ、大教室の会場は生徒や同窓生な

記念講演、公演に万雷の拍手

典の中で吹奏楽部によって披露された。大阪万国博覧会の「世界の国からこんにちは」の作詞者・島



応援歌を吹奏楽部が披露



聴衆を魅了した夏川さん



大きな拍手に迎えられた所教授

卒業生が華を添えた祝賀会

を实践する大切さを熱く語った。最後に「五十年後、会場の多くの高校生は百周年の式典でここに来るはず。その日を、良い一日にしてほしい」と述べ、万雷の拍手の中で講演を締めくくった。

皇學館高等学校創立五十周年、皇學館中学校創立三十五周年の記念行事が去る九月十四日に開催された▼周年行事の意義は稽古照今ということになる。次の五十年を見据えるとき、これまで築



倉田山 春秋

皇學館高等学校創立五十周年

皇學館中学校創立三十五周年

周年記念行事を盛大に挙行

皇學館高校と皇學館中学校では、保護者会・後援会・同窓会の支援を受けて創立五十周年及び三十五周年に向けて施設の整備・拡充を進めてきた。その集大成として、九月十四日に記念行事が盛大に開催された。当日は多くの来賓や同窓会員が参加し、大盛況の一日となった。

厳かに執り行われた祭典・式典

最初に行われた記念祭典では、佐古一洌理事長や中村貴史校長、高校・中学校の代表者が厳かに

玉串奉奠を執り行った。続いて来賓や同窓会員を招いて記念式典が挙行された。最初に中村校長

が賀陽宮邦憲王殿下の令旨を奉読。その後の式辞で、現代に求められるのは「国家に対する正確な認識を持つ人材」であり、その人材育成こそが令旨

の『皇国ノ文学ヲ修メ』る意義だと述べた。次に登壇した佐古一洌理事長は、時代がどう変わろうとも「建学の精神を堅持実行するな

午後からは所功本学特別招聘教授・京都産業大学名誉教授による記念講演「皇室に学ぶ日本人の底力」が行われ、大教室の会場は生徒や同窓生な

典の中で吹奏楽部によって披露された。大阪万国博覧会の「世界の国からこんにちは」の作詞者・島

を实践する大切さを熱く語った。最後に「五十年後、会場の多くの高校生は百周年の式典でここに来るはず。その日を、良い一日にしてほしい」と述べ、万雷の拍手の中で講演を締めくくった。

皇學館高等学校創立五十周年、皇學館中学校創立三十五周年の記念行事が去る九月十四日に開催された▼周年行事の意義は稽古照今ということになる。次の五十年を見据えるとき、これまで築

多大なご支援に感謝

神社関係者懇談会



日頃のご支援に対して感謝の言葉を述べる佐古理事長

九月六日、午後六時より鳥羽国際ホテルにおいて、平成二十五年度神社

関係者懇談会」が開催された。この会は日頃より本学へ多大なご支援をいただいている神社関係者及び本学協議員の方々へ感謝を捧げ、変わらぬ親交をお願いするものであり、当日は神社本庁や神宮、各県神社庁などからおよそ百六十名の方々がご参加になり、和やかなひとときとなった。

本学からは佐古一洌理事長をはじめ十六名が出席。冒頭の挨拶で佐古理事長はご参加の方々に謝辞を述べ、近年の大学を取り巻く社会状況、大学運営について説明した。

皇學館高等学校創立五十周年、皇學館中学校創立三十五周年の記念行事が去る九月十四日に開催された▼周年行事の意義は稽古照今ということになる。次の五十年を見据えるとき、これまで築

保護者と情報共有

— 萼の会地区別教育懇談会 —



担当教員の話に、保護者が真剣な表情で耳を傾ける個別懇談会



学生の普段の様子を報告

本学では教職員だけでなく保護者も一丸となって学生を支援するという目的で、開学当初から「父兄会」を組織してきた。平成八年には花の萼が花弁を守り、支える姿に倣って「萼の会」と名称を改め、今日に続いている。

萼の会では、学生の普段の生活や成績、就職活動の状況について教職員が保護者に直接説明・報告する機会を設けるため、各地で「地区別教育懇談会」を開催している。本年も八月三十一日から九月八日にかけて全国九カ所（伊勢・津・四日市・名張・浜松・名古屋・京都・神戸・福岡）で実施

多彩な情報交換を行う

その後、教職員と保護者相互の親睦を深める立食・パーティ形式の「懇親会」が行われ、参加者全員が親睦を深めると同時に、日頃話す機会の少ない保護者同士、また学長や教授らとの間でさまざまな情報交換を行った。名古屋会場に参加した

数字でみる皇學館 これは何の数字？

94,449名

佐川記念神道博物館の入館者数

神道及び神社の紹介を通じ日本の文化や歴史、伝統、信仰、思想等を正しく伝えたいと平成元年に設置された佐川記念神道博物館。一般公開は平成4年10月26日からで、平成25年9月30日までの入館者数は94,449名にのぼります。その目的から無料で公開されており、教養講座や夏休み親子教室等も無償で開催。地域文化の向上にも貢献しています。

学芸員めざす学生が発掘調査

教育学科二年の男子学生の母親は「息子は『大学が楽しい』と言うが、楽しいだけでいいのか心配だった。しかし先生から

『サークルやアルバイトなど、大学で思い切り楽しんだ経験が教師になった時に役立つ』と聞いて安心した。来年も参加し

たい」と語った。国史学科四年の女子学生の母親は「娘のゼミの先生に感謝の気持ちを伝えたくて参加した。こんなに楽し

い会なら早く参加すべきだった」と感想を述べた。来年の地区別教育懇談会も、夏季に全国各地で開催される予定だ。

考古学を学ぶ国史学科の学生など計十六名が済生会明和病院内安養寺跡（明和町地内）で実施された発掘調査・出土品整理の補助に参加した。もとより、遺跡の発掘調査は高度な専門知識と熟練した技術が必要なこと

から考古学の授業を受け、発掘調査に参加して調査技術などを学んだ経験者が求められる。大学生が行政の行う発掘調査に参加できる機会は極めて少なく、今回の参加は本学と明和町との連携協定により特別に実現したものだ。

発掘調査は八月一日から九月二十日まで行われ、学生たちは鍬や移植こ、竹べらなどの道具を使って少しずつ慎重に土を掘り進む。根気が必要な作業だ

慎重に土を掘り進む。根気が必要な作業だ

以下に参加した学生の感想を紹介する。◇発掘作業は土を掘るだけでなく、測量や記録といったさまざまな作業を含んでいる。自分の発掘したものが必要な遺物かもしれないと思うと緊張と同時に興奮も感じた。◇実測の作業が大変かつ重要だと身をもって学べ

た。◇土の色の違いから遺構やその時代を検証できることがよくわかった。実際の発掘作業に携わったことで考古学に対する探究心が一層膨らんだ。◇身体中が筋肉痛になり何もできない自分が情けなかったが、最終日に「もっと弱いと思ってたけど、結構できるんやな」と声をかけられ嬉しかった。発掘技法はもちろん、一生懸命取り組む大切さだと改めて思った。

皇學館 | 人物列伝 | 21

鈴鹿 三七 (すずかさんしち)

明治21年京都市生。大正2年京都帝国大学卒業。武道専門学校教授、大谷大学予科教授、京大附属図書館嘱託、ノートルダム清心女子大学教授を歴任。昭和41年皇學館大学教授。国文学特殊講義、国文学研究演習、国文学概論、中古文学講義を担当。1888～1967。



日本書誌学の樹立に精魂を傾ける

鈴鹿家は天智天皇の御代に右大臣であった中臣金連を祖とし、亀卜の秘儀を継承した京都にある吉田神社の杜家の家柄である。近世には、世に古辞書『新撰字鏡』を紹介した鈴鹿連胤がいる。鈴鹿三七はこの家に生まれ第六十代に当たる。鈴鹿三七は、書誌学に造詣が深く、また、古文書の読解については神技とまで称された。古典作品ばかりでなく西田幾多郎全集所収の書簡の読解なども手がけている。編著には『勅板集

影』、『北村季吟著作集』があり、恩師の吉澤義則の名で刊行された『日本古刊書目』はその後発展する書誌情報についての萌芽的なものといえる。そして、国語学・国文学で鈴鹿本といえ何と言っても『今昔物語集』が想起されるであろう。平安時代末の漢字片仮名交じり文体や漢字字形の様相をよく残した写本である。鈴鹿連胤の購入した九冊は国宝に指定され、平成三年に京大附属図書館に寄贈された。こ

儀なくされる中で鈴鹿三七は度々かばんを手にし「伊勢へ行く、伊勢へ行きたい」と訴えたという。昭和四十二年六月四日冠状動脈硬化症による心臓麻痺で本学教授在任中、急逝した。鈴鹿三七の旧蔵書は愛媛大学附属図書館長を務めた井手淳二郎氏の妹が三七の夫人にあたるという縁から愛媛大学に一括購入された。また、鈴鹿家の宮廷祭祀資料群は平成十七年十二月に本学に寄託され、研究が進められている。(国文学科教授 齋藤 平)

オープンキャンパス実施報告

各種プログラムが大盛況



大盛況となった記念館での個別相談コーナー

皇學館大学では六月から八月にかけて三回のオープンキャンパスが実施され、およそ千三百名の高校生が参加した。本学のオープンキャンパスは今回にさまざまなテーマを設定しており、リピーターが多いのが特徴だ。六月九日に開かれた第一回は「仕事」発見DAY」と題して「なるには塾」を開催。神職や司書、小学校教諭、保育士など本学のOB・OGが講師となり、その職業につくための勉強方法や、現場での仕事のやりがいなどを語った。第二回の二日目、七月十四日のテ

ーマは「学び」体験DAY」。神道学科では「着付け体験」、コミュニケーション学科では「第一印象診断ゲーム」など各学科が特色ある体験プログラムを用意し、授業の雰囲気や研究分野の一端を知ってもらうためのさまざまな工夫を凝らした。八月十八日に行われた第三回はAO入試直前ということでAOセミナー本番さながらの講義を実施。熱心にメモをとる光景が見られた。なお、次回は十一月三日、大学祭（倉慶祭）との同時開催を予定している。入試説明会だけでなく学生の手づくりイベントや模擬店など、さまざまな企画を用意しており、本学の雰囲気や環境を自分の目で確かめる絶好の機会だ。興味のある方はぜひご来場を！

皇學館高校 吹奏楽部が初のWタイトル!

— 高等学校吹奏楽コンクール三重県大会優勝、東海大会金賞 —



9月22日・23日に行われた第6回定期演奏会で、金賞受賞曲を披露した

八月十日、津市の三重県総合文化センターで開催された三重県吹奏楽コンクールに皇學館高校吹

奏楽部(前川幸生顧問)が出場し、高校A編成(五十名以下)の部で優勝し、最高位の朝日新聞社賞を受賞。同月二十五日には、長野県のホクト文化ホールで行われた東海吹奏楽コンクールに三重県代表として出場し、同じく高校A編成の部で金賞を受賞した。これまで数多くの受賞実績を誇る同部だが、吹奏楽コンクール三重県大会優勝、東海大会での金賞受賞のダブルタイトルは初の快挙。

顧問の前川先生は指導して今年で八年目。日頃から演奏技術の向上はもちろん、音楽活動を通して、他人に気を配り支え合いながら全員で成長できる集団づくりに取り組んできた。「本校の吹奏楽部は百名を超す大所帯。だからこそ、生徒は先生に言われたまま行動するのではなく、何が大切かを一人ひとりが自分で考え、実行することが大切」と前川先生。たとえば「楽しい演奏」をするために、みんなが楽しそうに振舞うのではなく、全員が心から楽しめるにはどうすればいいかを考えるように指導してきた。そのマインドが先輩から後輩へと八年間にわたって受け継がれた結果、今大会で

『日本のホスピスを考える』

仏教看護・ビハラー学会第九回年次大会

八月二十三日から二十五日にかけて仏教看護・ビハラー学会が本学を主催・シンポジウム・総会・

会場に開催され、エクスカーション・講話・基調講演・シンポジウム・総会・



楽しい解説でステージを盛り上げる前川先生

の朝日新聞社賞及び金賞に結び付いたといえる。次は、全国大会への出場・入賞という高い次元の目標が控えているが、「日々の活動をより充実した楽しいものにした」と前川先生。その目標を、次は後輩たちが受け継いでいく。

井後 政晏氏
宮城洋一郎氏

この度、井後政晏神道学科前教授、宮城洋一郎社会福祉学科前教授が名誉教授に推薦・承認されたことを受け、その就任式が七月十二日に行われた。

名誉教授に就任

研究科国史学専攻修士課程を修了した後、熱田神宮に文化研究員として奉職。昭和六十二年に本学神道研究所講師に就任して以降、助教授、教授を歴任し二十六年にわたり神道学の教育、神職養成に従事してこられた。その間、研究にも努められ、

単著として『諸国の一宮と総社』、共著として『真清田神社史』『伊勢と出雲の神々』などを執筆されている。また、神社本庁などで神職養成の講師を務めており、これら学内外での多大な功績が評価された。

宮城教授は昭和四十六年に龍谷大学文学部史学科を卒業後、同五十二年に博士課程を満期退学。その後、種智院大学の教授などを経て、本学へは社会福祉学部開設の設置



就任式で記念撮影をする両教授

め、地域福祉文化研究所所長として日中韓三国の福祉研究に尽くし、国際的な共同研究の道筋をつ

け若手研究者の支援に努め、地域福祉文化研究所所長として日中韓三国の福祉研究に尽くし、国際的な共同研究の道筋をつ

めた功績は大きい。また、地域にあっても保護司として貢献してきた。今後、より一層の活躍が期待される。

後からは本学・櫻井治男教授が基調講演「神道と死生観―『超生・超死』の意味―」を行い、その後「緩和ケアは死と向き合ってきたか」をテーマにシンポジウムを開催。松阪市民病院内科部長・平野博氏の発題理由を受けて、患者、遺族、社会福祉士、看護師、医師それぞれの立場からの意見交換がなされた。最終日は

看護・ビハラー学会 第9回年次大会



多彩な視点から活発な意見交換がなされた

11月1日から7日は「教育・文化週間」です

教育・文化週間は教育や文化への関心と理解を深め、充実・振興を図ることを目的として設けられ、今年で55回目を迎えます。本週間の期間中には、全国各地で教育・文化に関する様々なイベントが開催されます。



生涯学習のイメージキャラクターのマナビ(中央)

- 博物館や美術館の無料公開や特別展示
- 伝統芸能・工芸の鑑賞会や体験講座
- 地域住民が日頃の活動成果の発表を行う市民文化祭
- 図書館、公民館などでの各種講演会・講座
- 大学等における公開講座 ● 子供向けの自然体験教室 …等々。

興味のあるイベントにぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。詳しくは ▶ http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kyoiku-bunka/

●インターンシップ

本に関わる仕事に就きたい

国文学科3年・鏡島里菜（希望職種・サービス業）

インターンシップ先 明和町立図書館

明和町立図書館でカウンター業務のほか、書架の整理や本の修理・コーティング、レファレンスサービス、児童向けの新コーナー作りなどに関わりました。司書は座って作業することが多いと思っていましたが、実際は重たい本を何冊も抱えて移動したり利用者からの要望に応えるため対策会議を行ったりと、体力や柔軟な発想も求められる職業です。心地よい空間づくりのために笑顔で接するなど、サービス業という側面もあります。司書の仕事の面白さを知って、本に関連する業界に進みたいという具体的な目標ができました。

就労観が変わった

国史学科3年・井上英樹（希望職種・サービス業）

インターンシップ先 東京海上日動火災保険

人への接し方等々学ぶことは多かったのですが、いちばんは社会人の方と触れ合い就労観が変化したことです。仕事は大変でつらいことばかりというイメージでしたが、インターンシップ先では皆さん生き生きとして自分の仕事に誇りを持って働いていました。具体的にどの企業に入りたいという希望はなかったのですが、今回のことで雰囲気の明るい職場で働きたいと強く考えるようになりました。就職活動においては企業研究をしっかりしていきたいです。

人を支える職に就きたい

国史学科3年・池田博章（希望職種・中高教諭）

インターンシップ先 百五銀行

銀行業務について詳しく教えてもらったり、資金証券という部署で余ったお金を株や国債に運用している現場を見学させてもらったりしました。今まで銀行は貯金のイメージしかありませんでしたが、企業の発展や景気向上を支える存在であることを改めて知ることができよかったです。私は就職に対する気持ちが薄く目標も定かではありませんでしたが、今回参加したことで人を支える職に就きたいという意識が高まりました。

希望職種に広がり

現代日本社会学科2年・堤文香（希望職種・福祉関連）

インターンシップ先 伊勢市役所

伊勢市役所で事務作業や窓口業務の手伝いをしたり、児童センターや児童園などで体験学習をしました。児童センターでは子ども同士が言い合いを始め、一人の児童が手を出しそうになり強く叱ったこともありましたが、最終的にはその子がいちばん懐いてくれたので嬉しかったです。児童福祉分野での就職を望んでいましたが、障がい児と関われる仕事にも興味を持ちました。今回インターンシップに参加したことで選択の幅が広がり、とても有意義な時間を過ごせたと思います。

職種イメージがより明確に

国文学科3年・奥村詩織（希望職種・観光・サービス業）

インターンシップ先 鳥羽シーサイドホテル

ホテルの玄関に立ちお客様のお出迎えやお見送り、客室へのご案内（エスコート）業務などを体験しました。サービスについて学んだのは、何をすればお客様が喜ぶのか、どうすることがいちばん適切なのかを自分で考えて行動しなければならないということ。基本的な手順はあっても一人ひとり臨機応変に対応しなければなりません。9日間という短い研修でしたが、実際に経験したことで観光・サービス業を漠然としたイメージではなく、現場の雰囲気を含めより明確に捉えることができたのは大きな収穫でした。

「責任」の意味を知る

国史学科3年・宮下晃太郎（希望職種・公務員）

インターンシップ先 津地方法務局

社会人になったとき、自分は「責任」を持って働けるのか、「責任」に押し潰されないか心配でした。でも、法務局の方の仕事ぶりを拝見するうちに、責任を持って働くということは、誰かのために行動することだと気付きました。この気持ちを忘れずに就職活動に励み、社会へ出たときは自分も「責任」を持って働ける社会人になりたいと強く感じました。

他大生との交流が刺激に

現代日本社会学科2年・羽田明莉（希望職種・公務員）

インターンシップ先 三重県庁

実習に参加していた他大学の学生が将来の夢や希望についてははっきりと答えているのを見て、とても刺激を受けました。「これになりたい」という明確な意思があれば、就職活動におけるモチベーションも違ってきます。また、インターンシップ中は自分の意見をはっきりと述べなければいけない場面が多く、人前で話すことが苦手な私も少し度胸がつきました。これらの経験を今後の就職活動に活かしたいと思います。

志望先を変更

現代日本社会学科2年・岡剛史（希望職種・マスコミ・メディア）

インターンシップ先 三重テレビ

生放送番組の取材や取材映像の編集、ニュース原稿の作成など現場作業に携われたのは貴重な経験でした。とくに伊賀上野城で忍者体験をしていた外国人観光客に英語で取材できたときは嬉しかったです。今回、どんなニュースでも使われる映像は全体の1、2割であることや報道する側として強い責任感が求められること、行動力や表現力が必要なことなど資質に関わることも学びました。新聞記者から放送記者になりたいと志望も変わり、本格的な就職活動を前に軌道修正できてよかったです。

研究室
探訪

vol.
17

白山ゼミ

文学部神道学科

神道の実践者という自覚を持ち、多彩な視点で神道を学んでほしい。

大阪の近鉄文化サロン阿倍野で「古事記を読む」という講座を開講する白山先生。難しそうなテーマながら、先生のわかりやすい解説と気さくな人柄で好評を博しています。ゼミも大人気で、毎年多くの学生が白山ゼミを希望するそうです。

白山芳太郎（神道学）教授



ば日本の仏教史や儒教史、陰陽道の影響など、幅広い側面に興味を持ち、日本人の心に深く根付いている神道を幅広い視点から学んでほしいと願っています。



私の研究テーマは神道学（神道史）および日本学です。これまで日本の文化と歴史の根底で、神道はとても重要な役割を担ってきました。たとえば「華道」。ある側面から見れば、華道とは花の命を奪うということです。しかし華道によって花は以前にも増して「美しさ」を取り戻し、再び命を得ることが可能になります。だから「花を生ける」と言います。このように日本人の精神性と深く結びついた神道について、歴史的にアプローチすることが私のゼミの目的です。

私は神道の実践者ではなく、単なる研究者に過ぎません。しかし私のゼミで学ぶ学生は、これから神道の実践者として日本や世界に神道文化を発信するという重要な役割を担うべき人材です。ですから、ただ神道について学ぶのではなく、日本文化の「諸相」、たとえ

学生コメント

先生の知識の幅広さに驚きました

矢島陽子さん 神道学科4年

白山先生は、文学部の教授でありながら（？）専門以外の分野に関しても実に知識が豊富で、根っから電車が好きな私でさえ知らない電車のウンチクを語ってくださいたり、フェイスブックの私のページにコメントを書き込んでくださったこともありました。卒論は先生に相談した結果、京都・八坂神社の祇園祭について書くことに決めました。分からないことがあったらすぐに先生に質問に行っていますが、すぐ答えを出してくださいます。

何でも自由に研究できるゼミです

上杉千花さん 神道学科4年

白山先生はとても優しく、私の他愛もない世間話につきあってくださったり、私がアルバイトをしているカフェを訪ねてくださったりします。白山ゼミの良いところは、雰囲気がとても自由だということ。学生や先生が互いに褒めあうこともなく、ゼミでの発表もゼミ旅行もかなり自由にやらせていただいています。私は実家が社家のため、卒論は、実家の神社に縁の深い美濃・飛騨の白山信仰を調べて書く計画です。

社会への第一歩

実習・インターンシップ
体験記

本格的な就職活動を前に、4月から9月までの半年間で801名の学生が実習・インターンシップに参加した。インターンシップとは近年とくに注目が集まっている制度で、学生が興味を持っている業界や企業で一定期間就業体験をするというもの。実践的な社会経験を積むことでめざす職業への理解が深まり、将来像を具体的に思い描くきっかけになったり、「仕事とは何か、社会とは何か」といった就労観、社会観を見直す機会にもなる。実習・インターンシップに参加したことでどのような発見、成果があったのか、以下に14名の体験談を紹介する。



●実習

一見地味な奉仕こそ重要

神道学科3年・西谷優司（希望職種・神職）



実習先 橿原神宮・速谷神社

実習では清掃や宿直など日々の奉仕に加え、お守りの在庫の確認、駐車場の整備といった年末年始の奉仕を体験しました。宿直や清掃は一見地味に見えますがこうした奉仕こそ重要で、昼夜を問わず奉仕する意義、信仰心を養えたと思います。神職の方々が家庭のように温かな雰囲気の中で奉仕されていたのも印象的で、そうした関係を築いているのは日頃の挨拶や声かけではないかと発見しました。また、國學院大學をはじめ他大学の学生と寝食を共にし一丸となって実習に取り組むにつれ、互いに気付いたことを指摘し合い、作法や信仰心の向上につながりました。とても刺激を受けた交流でした。

めざす教師像が見えてきた

国文学科4年・日野志保（希望職種・中学校国語教諭）



実習先 岡山市立建部中学校

実習中学んだのは「7褒めて3叱れ」の大切さです。まだ生徒のことをよくわかっていない時に服装を正すよう注意したら「うぜえ」と言われました。そこで、褒めてから注意するようにしたら反抗することなく直していました。また、私語はないが反応も薄いクラスがグループワークを取り入れると活発になるなど、クラスによってうまくいく授業形態が違うことも発見しました。生徒をしっかり観察して対応することが大事だと感じました。机上の学習ではなく、実際に生徒と接し、先生方の仕事を拝見することで自分なりの教師観、生徒観が膨らんだことがこの実習で成長した部分だと思います。

一生懸命やれば応えてくれる

コミュニケーション学科4年・中川綾菜（希望職種・中学校英語教諭）



実習先 伊勢市立港中学校

教師は憧れだけでできる仕事ではないことを痛感しました。専門教科や部活動のほか、生徒が提出するデイリーノートの点検など生活部分の指導、また、学校自体の問題にも対応しなければいけません。正直、自分が想像していた以上に大変で、悩むことも多かったです。でも、授業が楽しい、わかりやすいと思ってくれる生徒が一人でも増えればと寝る間を削って毎日頑張れたことで自信が芽生え、少々のつらさには動じなくなりました。自分自身が一生懸命になれば、生徒は必ず応えてくれることも学びました。最後の授業で、生徒全員が起立してお礼を言ってくれたことが心に残っています。

「本物」に触れ、認識を改める

国史学科4年・御田幸嗣（希望職種・神職）



実習先 太宰府天満宮宝物殿

太宰府天満宮宝物殿で学芸員実習に参加しました。仕事は収蔵庫の整理が中心で、実際の美術品を取り扱うほか、小学生向けのワークショップにもスタッフとして同行。展示品の解説資料作りも手伝いました。現場ではいくつもの課題、業務を同時進行でこなしていかなければならず、内容也多岐にわたり、力仕事のほかに豊富な知識、幅広い教養が必要です。たった一枚の資料でも多くの時間をかけ何度も繰り返し精査しなければいけません。「本物」に触れたことで要求されるレベル、プロ意識の高さを実感し、甘かった認識を見直すことができました。

信頼関係、助け合いが必要

教育学科3年・玉井隆至（希望職種・小学校教諭）



実習先 甲賀市立伴谷小学校

教師は自分の担当クラスだけが運営できていればよいと思っていましたが、学校という組織の一員として「報告・連絡・相談」をしっかりやって初めて全体が機能することを発見しました。そして、一人の力では成り立たない職業であることも……。子どもはもちろん、仕事仲間、地域社会、保護者との信頼関係、助け合いがあってこそ「よき授業」を創り上げることができます。実際に、私と児童との信頼関係が深まるにつれ、手を挙げて発表する生徒が増えていきました。20日間という短い期間でしたが、日々成長する子どもたちの姿を見ることが教師のやりがいだと感じられた実習でした。

講義通りにはいかない

現代日本社会学科3年・世古口さおり（希望職種・福祉関連）



実習先 障害者福祉サービス事業所ありんこ

施設利用者の方が喫茶店で働いている様子を見学したり個別支援計画書を作成したり、ほかにも保護者の方の話を聞くなど、現場でしかできない仕事をたくさん体験させていただきました。その中で思ったのは、福祉の仕事は利用者と深く関わることで楽しさややりがいを見出せる職業だということ。同時に、大変さや難しさも感じました。考えていた以上に利用者は私たち実習生や職員の動きを見ているので、自分の言動には責任を持って関わっていかなければいけません。また、実際は講義で習っている通りにいかないことも多く、福祉の現場で働くには知識だけでなく経験が必要だと改めて思いました。

自信と達成感得た二週間

オーストラリア語学研修

今年で十二回目を迎える海外語学研修が七月二十二日から八月四日の二週間、本校の姉妹校ローズヒル・セカンダリー・カレッジで実施された。カレッジはオーストラリア

メルボルン市近郊の閑静な住宅街にある、美しい自然環境に恵まれた全校生徒約千名の公立学校だ。

今年の語学研修には、男子二名、女子八名の計十名の生徒が参加した。十名の生徒



メルボルン動物園にて記念撮影

は現地での研修に先立ち、国際交流担当の主任・角屋重文教諭の指導のもと、三月より「英会話のレッスン」をはじめとして、現地で披露する「アトラクションの練習」、小学校訪問で紹介する「日本の伝統・文化や遊びの英語による説明」などの準備を進めてきた。

ローズヒル校では、ホスト生とともに登校し、ホスト生と同じ授業に参加する。本校生徒だけを対象とした英語の特別授業も行われる。また、校外語学研修としてホストとともに近隣のショッピングセンターやビクトリア・マーケット、メルボルン動物園へ行き、買い物や食事などを通じて現地での生活や習慣、文化の違いに直接触れるプログラムも用意されている。さらに、近隣の小学校へ行き、日本の遊びや文化（紙芝居、紙

相撲や折り紙など）を小学生に紹介し、体験してもらう活動もある。今年は、「紙相撲」「折り紙」「ダルマさんがころんだ」を小学生と一緒に、大変盛り上がった。小学生だけでなく、小学校の先生方にも喜んでもらえたと思う。ローズヒル校での最終日には、本校が主催するフェアウェル・パーティー（お別れ会）が開かれ、ローズヒル校の先生方、ホスト家族と一緒に楽しいひとときを過ごした。パーティーの最後にラウス校長より、語学研修の修了証書が本校生一人ひとりに手渡された。

翌日の帰国にあたって、空港近隣のホテルが集合場所となった。生徒一人ひとりがホスト家族との別れを惜しむとともに再会を誓い合い、帰途についた。生徒一人ひとりが自信を深め、大きな達成感を得ることができ、実り多い研修となった。

教頭 多田真二

新校友会役員が抱負

七月五日に校友会の新役員を決める選挙が行われ、次の三名が選出された。以下に彼らの抱負の言葉を紹介する。

選ばれた責任を果たす

総務委員長 二年七組 城貴斗

私が今、こうして総務委員長という職を与えられているのは皆さんの後押しがあったからにほかなりません。「どうせやるなら、楽しいことを」やるからには自分たちが

出せる力をすべて出し切り、悔いの残らない、むしろ「時間が戻ってほしい」と思える行事や日々を作る助けになればと思っています。

選ばれた責任を果たすべく、期待を現実に変えられるよう奔走していくので応援のほど、どうかお願いします。

全員が楽しめる学校に

総務副委員長 二年七組 平田拓海

私が今回、総務副委員長になって一番したいことは皇學

皆さんの力が必要

総務副委員長 二年十組 大畑綾音

私は、この皇學館高校をよりよい学校にしたいと思っています。そのためには、私たち三人の校友会役員の力だけでなく、皇學館高校生である皆さんの力や意見が必要です。今、この学校では何が求められているのかを、皆さんの意見を聞き、活動していきたいです。先輩方が繋いでくださった「バトン」を後輩たちに繋げられるよう頑張ります。これから一年間、よろしくをお願いします。



左から委員長の城君、副委員長の平田君、大畑さん

●訂正とお詫び
前号（第45号）の表彰者一覧の中で左記の間違いがありました。ここに訂正し、お詫びいたします。
囲碁・男子個人
誤…吉居幸祐（東海大会出場決定）
正…吉居幸佑（全国大会出場決定）

皇高生気分を満喫

学校見学会を開催

九月二十一日、本年度第一回となる皇學館高等学校見学会を開催し、県内各地から中学生、保護者、中学校教員合わせて約七百名が参加した。

当日は平賀秀忠教頭による挨拶に続き、生徒代表（総務委員長）の二年七組・城貴斗君の歓迎の言葉でスタート。

第一部では多田真二教頭による学校紹介、入試担当者の説明のあと、吹奏楽部による歓迎ミニコンサートが開かれた。参加者アンケートに

は、「吹奏楽部の演奏に感動した！」という中学生の感想が多く寄せられた。

第二部では校舎内を見学した後、皇學館大学・倉陵会館での学食体験を実施。十八の班に分かれた参加者は高校体育館を出発し、案内係の教員や現役生徒とともに高校校舎から中学校校舎、そして大学へと歩を進めた。大学学食では、普段のメニューにはない「カツカレー」が振る舞われた。



盛り上がった歓迎ミニコンサート

第二回は十月十九日に実施、第三回は十一月十六日に開催予定。一回目に引き続き多数の参加を期待している。

入試広報部長 坂本昌也

小学生・アドバンスト部門で上阪さんが優勝

第八回英語スピーチコンテスト

八月二十四日に皇學館中学校・高等学校英語スピーチコンテストが中学校セミナーホールで開催された。スピーチコンテストは今年で八回目を数え、年々参加者が増えている。さらには教育委員会や新聞社、英検などの後援団体も増え、かつてない盛況となった。今回、小学生の部は五十四名、中学生の部は二

十八名、計八十二名の参加者が日頃の練習の成果を披露した。

本年度は例年にも増してレベルが高く、審査員の先生方を悩ませた。結果は、小学生の部（アドバンスト部門）ではGHS・英会話学校の上阪奈那さん、ヘビギナー部門では西が丘小学校の野村明冬さん、中学生の部では高田中



賞状を手にし、喜びの表情を見せる

学校の稲葉雅紀さんが優勝に輝いた。なお、上阪さんは昨年度のビギナー部門優勝者である。

会場には今年度は参加を見送ったものの次はぜひ参加したいという方々も多数来場しており、来年度はさらにレベルの高い大会になるものと期待している。

英語科 角屋重文

皇中 NEWS

初の夏休み開催

平成二十五年年度 オープンスクール2013

八月二十五日に小学生とその保護者を対象にしたオープンスクールが実施された。夏休み中の開催は初めての試みで、雨天にもかかわらず多くの小学生、保護者が参加した。

セミナーホールを会場に、合唱同好会による「日記のうた」で始まったオープニングでは軽快なリズムや面白い歌詞に小学生の笑顔が見えた。そして、学校長挨拶、学校説明が行われた。



体験授業に興味津々の参加者たち

た。

最後に学校見学ツアー、部活動体験見学が行われた。学校見学では教員が学校を案内し、部活動体験では在校生と共に小学生が汗を流した。また、在校生が質問に答える個別相談ブースでは交通手段や学校の様子などを小学生と保護者が真剣に質問していた。

第2回説明会を開催します！

11月17日(日) 9時30分～

- 学校説明
 - 入試説明
 - 入学対策授業：国語・算数・理科・社会
- ※入試プレテストがもらえます！

- ・事前予約は不要です。
- ・対象は入学を希望する小学生と保護者です。
- ・上記以外に学校見学も随時受け付けています。ご連絡ください。

●イベント開催のお知らせ

創立三十五周年記念 皇中祭

2日間とも入学を希望する小学生・保護者の皆様を対象に一般公開を行っています。
ぜひ、お越しください。

10月26日(土) 記念講堂 合唱コンクール・合唱同好会発表 記念公演(青島広志先生)	10月27日(日) 中学校校舎 クラス展示 記念行事(皇學館大学「雅」)
---	--

皇大生が国内外で活躍

本学の学生が日本のみならず世界へと飛び出し、文化やスポーツの分野で活躍している。目標を掲げ意欲的に取り組むことは人間として大きく成長するための第一歩。受け身ではなく主体的に行動することで、どの学生も机上では得られない貴重な経験ができたようだ。

雅楽部がソウルで海外公演

九月十五日、ソウルで開催された「日韓交流おまつり2013 in Seoul」に木村徳宏神道学科助教が部長を務める雅楽部の学生十三名が参加した。



両国の観客が見守る中、壮麗な舞を披露

つり」という文化をパイプに、伝統芸能を通じて交流を深め、未来志向の両国関係構築をめざすものだ。今回、雅楽部は日本代表の一員として公益財団法人日韓文化交流基金の支援を得て招聘された。

当日は、「めばえる希望、未来へ」のテーマのもと、両国あわせて十九の文化団体が出演。会場となったCOEXホールには、伝統料理試食コーナーや民族衣装の試着ブース、自治体・協賛企業

当日は、「めばえる希望、未来へ」のテーマのもと、両国あわせて十九の文化団体が出演。会場となったCOEXホールには、伝統料理試食コーナーや民族衣装の試着ブース、自治体・協賛企業

読売書法展に過去最多の七名が入選

書道部が第三十回読売書法展において過去最多七名の入選を果たした。読売書法展は書道界における最高峰の全国展。本年度、書道部からは二年生以上の二十三名が出品し、上杉真里佳さん(国文四年)、花井力君(国史四年)、杉森亮子さん(国文三年)、中瀬育世さん(同)、原杏実さん(国文二年)、中津果歩さん(同)、島田冨香さん(現日二年)の七名が審査を通過した。この入選者数は中部圏の大学書道部ではトップの数であり、全国的にも優秀な成績であることは間違いない。さらに指導する上小倉一志准教授も長年めざしてき

た読売新聞社賞を受賞し、この上ない喜びに沸いた。積み上げた技術を一瞬で出さなくてはいけないのが書道。その魅力を伝えたい」と上小倉先

柔道部四名が初の全国大会出場

八月三十一日に愛知県で行われた東海大会において北川ひとみさん(教育四年)、稲田達哉君(同二年)、山口まゆさん(国文一年)が準優勝、花田健悟君(教育一年)が三位という成績をおさめ、創部以来初となる個人での全国大会出場を決めた。日本武道館で開催された全国大会では残念ながら四人とも初戦敗退したが



「結果を出せて嬉しい」と4人



読売書法展の入選者たち

生。さらなる飛躍が期待される。

剣道部三ヶ本君が個人三位

神道学科一年の三ヶ本俊充君が六月十六日に愛知県中村スポーツセンターで開催された東海学生剣道新人選手権大会で個人三位に入賞した。剣道部員が同大会で入賞したのは十九年ぶりという快挙だ。同時に行われた男子の二部二部入



練習に励み技、精神面を鍛えたいと三ヶ本君

辻君が中国語カラオケ大会で三位

カラオケという大衆文化を通して次代を担う若者同士の交流を図ろうと開かれている「全日本青少年中国語カラオケ大会」その決勝大会が八月



喜びいっぱいの辻君

イベント情報 (11~12月)		
11月	9 土 古文書講座 712 教室	
「中世文書を読む!」-伊勢山田八日市場をめぐる古文書-千枝大志 (研究開発推進センター助教)		
	16 土 月例文化講座 431 教室	
社会情報と人づくり 藤井恭子 (現代日本社会学部准教授)		
	16 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野	
特別公開講座 内丹 -内なる錬金術と悟り- 道教と禅宗の関係について- 松下信道 (文学部准教授)		
	17 日 三重大学・皇學館大学 シンポジウム 621 教室	
「ご遷宮とまちづくり」		
①演題:「戦国~江戸初期における伊勢のまちとご遷宮」千枝大志 (皇學館大学研究開発推進センター助教)		
②演題:「遷宮を節目とする伊勢の現代まちづくり」浅野聡 (三重大学工学研究科准教授)		
③シンポジウム 「ご遷宮とまちづくり」		
山田雄司 (三重大学文学部教授)		
浅野聡 (三重大学工学研究科准教授)		
岡野友彦 (皇學館大学研究開発推進センター長)		
千枝大志 (皇學館大学研究開発推進センター助教)		
	23 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野	
神道と仏教 -神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離- 「仁和寺における神道と仏教」河野訓 (文学部教授)		
	30 土 神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室	
伊勢の神宮を語るⅡ -日本文化の源流を考える- 「御装束神宝と文様の美」		
岡田芳幸 (佐川記念神道博物館学芸員・教授)		
	30 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野	
『古事記』を読む (中巻)「仲哀天皇 (下)」		
白山芳太郎 (文学部教授)		
伊勢の遷宮を考える		
「1日の祭り1年の祭り 20年1度の祭り」		
白山芳太郎 (文学部教授)		
12月	7 土 月例文化講座 431 教室	
神話から見る現代社会の課題		
橋本雅之 (現代日本社会学部教授)		
	7 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野	
特別公開講座 古文書を読もう -北畠親家の最期- 岡野友彦 (文学部教授)		
	14 土 古文書講座 712 教室	
「中世文書を読む!」-伊勢山田八日市場をめぐる古文書-千枝大志 (研究開発推進センター助教)		
	14 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野	
『古事記』を読む (中巻)「応神天皇 (一)」		
白山芳太郎 (文学部教授)		
伊勢の遷宮を考える「御トと神饌」		
白山芳太郎 (文学部教授)		
	21 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野	
特別公開講座 日本書紀を読む -崇神天皇紀- 大島信生 (文学部教授)		
	28 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野	
神道と仏教 -神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離- 「富士山における神仏習合と神仏分離」河野訓 (文学部教授)		

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認くださいませますようお願い致します。
- 共催講座 (近鉄文化サロン阿倍野) のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野 (☎0120-106-718) へお願い致します。
- 神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります (先着順)。お問い合わせは (0596-22-6471) へお願い致します。
- 史料編纂所公開講座・古文書講座は、参加費無料・申込不要 (当日お越しください)。お問い合わせは (0596-22-6462) へお願い致します。
- その他、お問い合わせは、皇學館大学企画部 (0596-22-6496) へお願い致します。

編集後記

「実習・インターンシップ特集」では、学生たちから様々な体験記が寄せられました。教育実習を体験した学生は、「めざす教師像が見えてきた」「一生懸命やれば生徒は必ず応えてくれる」と、教師になるという目標をより明確に感じたり、ほかには「仕事はつらいイメージだったが、自分の仕事に誇りを持って生き生きと働く姿に就労感が変わった」「他大学の学生に良い刺激を受けた」など、就労現場の雰囲気や雰囲気、成長した様子も伝わってきます。後輩の皆さんも自己発見・成長の機会として下さい! (企画部)

11/1金 2土 3日 倉陵祭開催のお知らせ

樽神輿、模擬店、ステージ発表など楽しいイベントがいっぱいです。友人やご家族と、どうぞお越しください!



昨年の倉陵祭の様子



今年の準備の様子

●アーティストライブ

11月2日(土)

開場17時
開演18時~20時

無料・要整理券

かりゆし58

沖縄音階にロック・レゲエをチャップルーしたサウンドと、飾らない言葉でメッセージを発信し、世代を超え人気を呼んでいる。



●講演会

11月3日(日)

開場9時30分
開演10時30分~12時

無料・先着順

杉山愛氏「夢をかなえる生き方」

元テニスプレイヤー。グランドスラムのシングルス連続出場62回の世界記録を樹立。杉山愛ジュニア育成基金を立ち上げ、16歳以下の女子選手をサポートする『Road to Grand Slam』プロジェクトを始動させる。



三十日、北京で開催され、国史学科一年の辻博仁君が三位に入賞した。演歌が得意という辻君は千昌



「精一杯務めたい」と語る上杉さん (中央)

もの。上杉さんは「大変光栄。ハナミズキの可憐な花のように誰からも愛される女王をめざして人間性を磨き、罍堂が望んだ世界平和、日米友好の架け橋となれるよう仕事を全うしたい」と意気込みを語った。

第六代花みずきの女王に上杉さん

夫さんのヒット曲「北国の春」の中国語版である「北国之春を熱唱。本学の高潤生講師に指導を受けたという流暢な中国語で情感たっぷりに歌い上げ、聴衆を魅了した。「音楽に国境はない」と辻君。

大会を通して今まで以上に日本に誇りを感じ、中国の文化にも触れることができたとも話し、今後